

Cisco Meeting Server LDAP統合の設定

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[単一の統合導入](#)

[Active Directoryサーバの設定](#)

[インポート設定](#)

[フィールドマッピング式](#)

[復元力/拡張性の高い導入](#)

[WebインターフェイスAPI](#)

[LDAP APIオブジェクト](#)

[LdapServers](#)

[LdapMappings:](#)

[LdapSources:](#)

[Web GUI設定のAPIへの移行](#)

[ステップ1:Web GUIのActive Directory設定に注意する](#)

[ステップ2: API内のLDAPパラメータに移動します。](#)

[ステップ3:API内でのIdapServerの作成](#)

[ステップ4:API内でのIdapMappingsの作成](#)

[ステップ5:API内でのIdapSourcesの作成](#)

[手順6:IdapSyncによる設定変更の確認](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、Lightweight Directory Access Protocol(LDAP)とCisco Meeting Server(CMS)を統合する手順について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CMS 3.0に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

ここでは、CMSとのLDAP統合に関するさまざまなトピックに焦点を当てます。また、TZVREPLACETHIS設定をAPIに移行する手順についても説明します。

注：CMSでサポートされているLDAPサーバは、Microsoft Active Directory、OpenLDAP、Directory LDAP3、およびOracle Internet Directoryのみです。

注：以降のリリースでは、Web GUIによるLDAP設定は行われなくなり、APIのLDAP設定のみが行われます。

注：WebAdminでは、LDAPサーバを1つだけ設定できます。

設定

単一の統合導入

Webインターフェイス内でLDAP設定を設定する唯一のシナリオは、CMS用の単一の統合導入がある場合です。

注：Active Directoryは、CMSの以降のリリースではWeb GUIから削除されます。

The screenshot shows the 'Active Directory Configuration' window. It is divided into several sections:

- Active Directory Server Settings:** Includes fields for Address, Port, Username, Password (with a [change] link), and Confirm password. There is an unchecked checkbox for 'Secure connection'.
- Corporate Directory Settings:** Includes a checked checkbox for 'Restrict search to searcher OU'.
- Import Settings:** Includes fields for 'Base distinguished name' and 'Filter'.
- Field Mapping Expressions:** Includes fields for 'Display name', 'Username', 'Space name', 'Space URI user part', 'Space secondary URI user part', and 'Space call ID'.

At the bottom right, there are 'Submit' and 'Sync now' buttons.

Active Directoryサーバの設定

LDAPサーバへの接続を次のように設定します。

住所

これは、LDAPサーバのホスト名またはIPアドレスです。

ポート

389 for Unsecureおよび636 for secure connection。セキュア接続のチェックボックスをオンにする必要があります)

ユーザ名

登録ユーザの識別名(DN)。必要に応じて、ユーザを特定します。例：cn=Tyler Evans,cn=Users,OU=Engineering,dc=YourCompany,dc=com

Password

使用しているユーザ名のパスワード

セキュアな接続

ポート636を使用している場合は、このボックスをオンにします

インポート設定

インポート設定を使用して、インポートするユーザを制御します。

ベースの識別名

ユーザのインポート元のLDAPツリー内のノード。例：ユーザをインポートするためのベースDNの適切な選択肢を次に示します

フィルタ

ユーザのLDAPの属性値によって満たす必要があるフィルタ式。例：mail=*

レコード。Filterフィールドの構文は、rfc4515で説明されています。

フィールドマッピング式

フィールドマッピング式は、Meeting Serverのユーザレコードのフィールド値を、対応するLDAPレコードのフィールド値から作成する方法を制御します。

表示名
ユーザ名
スペース名 (Space Name)
スペース URI ユーザ パート (Space URI user part)
セカンダリスペースURIユーザパーツ
スペース コール ID (Space Call ID)

復元力/拡張性の高い導入

API内でLDAPを設定する必要があるシナリオは2つあります。1つのシナリオは、3つ以上のノードのクラスタ化された展開がある場合で、2つ目のシナリオは、複数のTZVREPLACETHISサーバがある場合です。

WebインターフェイスAPI

CMSのWeb Admin > Configuration > APIにログインして、API Web Interfaceに移動します。ここでは、すべてのAPI設定を行います。

LDAP APIオブジェクト

前述の手順でAPIに移動した後、フィルタバーに「Ldap」と入力します。これにより、実行できるすべてのLdap設定が表示されます。

API objects

This page shows a list of the objects supported by the API. Where you see a ► control, you can expand that section to either show a list of objects of that specific type or the details of one specific section of configuration.

Filter ldap (10 of 116 nodes)

```
/api/v1/ldapMappings ►  
/api/v1/ldapMappings/<id>  
/api/v1/ldapServers ►  
/api/v1/ldapServers/<id>  
/api/v1/ldapSources ►  
/api/v1/ldapSources/<id>  
/api/v1/ldapSyncs ►  
/api/v1/ldapSyncs/<id>  
/api/v1/ldapUserCoSpaceTemplateSources ►  
/api/v1/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<id>
```

オブジェクトツリーの「/ldapMappings」、「/ldapServers」、および「/ldapSources」ノードにある階層内のオブジェクトは、Meeting ServerがCisco Meeting Serverにユーザアカウントをインポートするために使用する1つ以上のLDAPサーバ (Active Directoryなど) とのインタラクションに関連します。

LdapServers

1つ以上のLDAPサーバを設定する必要があります。各サーバには、ユーザアカウント情報を取得するためにMeeting Serverに接続するために使用するユーザ名とパスワード情報が関連付けられています。

[« return to object list](#)

/api/v1/ldapServers

address *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	- required
name	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
portNumber *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	- required
username	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
password	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
secure *	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="true"/>	- required
usePagedResults	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="<unset>"/>	
<input type="button" value="Create"/>			

* =必須

住所*

[名前(Name)]

portNumber *

ユーザ名

Password

セキュア*

usePagedResults

接続先のLDAPサーバのアドレス

関連名 (バージョン2.9以降)

ポート389 (非セキュア) またはポート636 (セキュア)

LDAPサーバから情報を取得するときに使用するユーザ名

ユーザ名に関連付けられたアカウントのパスワード

LDAPサーバにセキュアに接続するかどうか。「true」の場合、TLS

使用されます。「false」の場合、TCPが使用されます。

検索操作でLDAPページ結果コントロールを使用するかどうか

LDAP同期設定しない場合は、paged resultsコントロールが使用されます。Oracle Internet

ディレクトリでは、このパラメータを「false」(バージョン2.1から) に設定する必要があります。

LdapMappings:

1つ以上のLDAPマッピングも必要です。これは、ユーザが設定済みのTZVREPLACETHISサーバからインポートされるときにシステムに追加されるユーザアカウント名の形式を定義します。

[« return to object list](#)

/api/v1/ldapMappings

jidMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
nameMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
cdrTagMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceUriMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceSecondaryUriMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceNameMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceCallIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
authenticationIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="Create"/>		

* =必須

jidMapping*

関連付けられたLDAPからユーザJIDを生成するかどうか

テンプレート

たとえば、サーバのエントリ

\$sAMAccountName\$@example.com。

注：jidMappingによって生成されたユーザJIDもして使用されます

したがって、は一意であり、どのURIまたはコIDとも同じではありません。

関連付けられた

LDAPサーバのエントリたとえば、「\$cn\$」と入ると、

name.

ユーザのcdrTag値を生成するためのテンプレート定可能

固定値に設定するか、他のLDAPフィールドからします

ユーザに対してユーザのcdrTagは、callLegStart CDRで使用されます。

詳細については、『Cisco Meeting Server CDRリレンス』を参照してください。

これらのパラメータが指定されている場合、各ユが

このLDAPマッピングによって生成されたアカウントには、

パーソナルcoSpace。

そのcoSpaceを必要に応じて設定するには、次のメータを使用します

coSpaces' URIを設定するためのテンプレートをします。表示されます

名前と設定済みのコールID。たとえば、coSpaceNameMappingを「\$cn\$ personal coSpa

に設定すると、

各ユーザのcoSpaceには、その名前の後に

「パーソナルcoSpace」

WLCから認証IDを生成するためのテンプレート

関連付けられたLDAPサーバのエントリ(たとえば "\$userPrincipalName\$")

nameMapping

cdrTagMapping

coSpaceUriMapping

coSpaceSecondaryUriMapping

coSpaceNameMapping

coSpaceCallIdMapping

authenticationIdMapping

LdapSources:

次に、設定されたTZVREPLACETHISサーバとTZVREPLACETHISマッピングを、ユーザのセットの実際のインポートに対応する独自のパラメータと結び付けた一連のLDAPソースを設定する必要があります。TZVREPLACETHISソースはTZVREPLACETHISサーバ/TZVREPLACETHISマッピングの組み合わせを取り、そのTZVREPLACETHISサーバからフィルタリングされたユーザセットをインポートします。このフィルタは、TZVREPLACETHISソースの「baseDn」(ユーザが見つめることができるTZVREPLACETHISサーバのツリーのノード)と、特定のパターンに一致するTZVREPLACETHISオブジェクトに対してのみユーザアカウントが作成されるように設定されています。

« return to object list

/api/v1/ldapSources

server *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	Choose	- required
mapping *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	Choose	- required
baseDn *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>		- required
filter	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>		
tenant	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	Choose	
userProfile	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	Choose	
nonMemberAccess	<input type="checkbox"/>	<unset>		
Create				

* =必須

- サーバ* 以前に設定したLDAPサーバのID
- マッピング* 以前に設定されたLDAPマッピング(
- baseDn* ユーザのインポート元となるLDAPサーバのツリー内のノードの識別名 (cn=Users,dc=,dc=comなど)
- フィルタ
- テナント
- userProfile
- nonMemberAccess

Web GUI設定のAPIへの移行

このセクションでは、LDAP Web GUI設定をAPIに移行する方法について説明します。Web GUIに現在Ldap設定があり、この情報をAPIに移行する場合は、次の例に従います。

注：ADをGUIからAPIに移動するとどうなりますか。GUIのActive Directory設定を削除する前にAPIを設定すると、ユーザ情報は変更されません。コールIDとシークレットも同じままです。ただし、その後APIを設定する前にGUIを削除すると、すべてのユーザが新しいコールIDとシークレットを取得します。

ステップ1:Web GUIのActive Directory設定に注意する

[Configurations] > [Active Directory]に移動します。ここでは、Web GUIのLDAP設定が表示されます。このスクリーンショットを撮るか、これらのコンテンツをコピーしてメモ帳++に貼り付けます。これは、後で必要になるためです。

Active Directory Configuration

Server Settings

Address: 14.49.24.6

Port: 389

Secure connection:

Username: cn=adminstrator,cn=Users,dc=lab,dc=local

Password: [change]

Confirm password: [change]

Corporate Directory Settings

Restrict search to searcher OU:

Import Settings

Base distinguished name: OU=CMSCombined,dc=lab,dc=local

Filter: mail=*

Field Mapping Expressions

Display name: \$cn\$

Username: \$sAPIAccountName\$@cmscombo.lab.local

Space name: \$cn\$ Space

Space URI user part: \$sAPIAccountName\$.space

Space secondary URI user part: [empty]

Space call ID: \$phone\$

Submit Sync now

ステップ 2 : API内のLDAPパラメータに移動します。

フィルタバーで[Configurations] > [API] > [Type "Ldap"]に移動します。

API objects

This page shows a list of the objects supported by the API. Where you see a ► control, you can expand that section to either show a list of objects of that specific type or the details of one specific section of configuration.

Filter: ldap (10 of 116 nodes)

- /api/v1/ldapMappings ►
- /api/v1/ldapMappings/<id>
- /api/v1/ldapServers ►
- /api/v1/ldapServers/<id>
- /api/v1/ldapSources ►
- /api/v1/ldapSources/<id>
- /api/v1/ldapSyncs ►
- /api/v1/ldapSyncs/<id>
- /api/v1/ldapUserCoSpaceTemplateSources ►
- /api/v1/ldapUserCoSpaceTemplateSources/<id>

LDAP設定のリストが表示されます。ここでは、LdapMappings、LdapServers、およびLdapSourcesについて説明します。まず、LdapServersについて説明します。

ステップ3:API内でのLdapServerの作成

このリストから[LdapServers]をクリックし、[Create New]を選択します。次に、Web GUI Active Directory内のコンテンツのスクリーンショットまたはメモ帳++を表示します。次に、Web Guiから[Active Directory Server Settings]を対応するAPI設定にコピーします。次をご覧ください。

Filter: ldap (10 of 116 nodes)

API objects

no objects of this type are present, or none match any filters that may be in use

object id	address	portnumber	name	username	secret
no objects of this type are present, or none match any filters that may be in use					

Status Configuration Logs

« return to object list

/api/v1/ldapServers

address *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	- required
name	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
portNumber *	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	- required
username	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
password	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
secure *	<input type="checkbox"/>	true ▾	- required
usePagedResults	<input type="checkbox"/>	<unset> ▾	

Create

/api/v1/ldapServers

address *	<input checked="" type="checkbox"/>	14.49.24.6	- required
name	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
portNumber *	<input checked="" type="checkbox"/>	389	- required
username	<input checked="" type="checkbox"/>	cn=administrator,cn=Users,dc=lab,dc=local	
password	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text"/>	
secure *	<input checked="" type="checkbox"/>	false ▾	- required
usePagedResults	<input type="checkbox"/>	<unset> ▾	

Create

ステップ4:API内でのldapMappingsの作成

ステップ4.が完了したら、API内で[ldapMapping]に移動します。[Configurations] > [API] > [Filter "ldapMapping"]を選択し、[Create New]をクリックします。

/api/v1/ldapMappings

jidMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
nameMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
cdrTagMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceUriMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceSecondaryUriMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceNameMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceCallIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
authenticationIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

Create

/api/v1/ldapMappings

jidMapping	<input checked="" type="checkbox"/>	\$sAMAccountName\$@lab.local
nameMapping	<input checked="" type="checkbox"/>	\$cn\$
cdrTagMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
coSpaceUriMapping	<input checked="" type="checkbox"/>	\$sAMAccountName\$.cs
coSpaceSecondaryUriMapping	<input checked="" type="checkbox"/>	*\$ipPhone\$
coSpaceNameMapping	<input checked="" type="checkbox"/>	\$sAMAccountName\$'s Space
coSpaceCallIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
authenticationIdMapping	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

Create

ここでは、Web GUIからフィールドマッピング式をコピーします。[Configurations] > [Active Directory] > [Filed Mapping Expressions]に移動し、ldapMappingのAPI設定を開きます。次に、[Configuration] > [API] > [filter "ldapmapping"]に移動し、[Create]をクリックします。

フィールドマッピング式(Web GUI)	API
表示名	nameMapping
ユーザ名	jidMapping
スペース名 (Space Name)	
スペース URI ユーザ パート (Space URI user part)	coSpaceURIMapping
スペースセカンダリURIユーザパーツ	coSpaceSecondaryUriMapping
スペース コール ID (Space Call ID)	

ステップ5:API内でのldapSourcesの作成

Web GUIから[Corporate Directory/Import]の設定を[LDAP Sources API configuration]に移行し、[Configuration] > [API] > [filter "ldapSources]を選択し、[ldapSources]の横にある矢印をクリックし、[new]を選択します。

/api/v1/ldapSources

手順3および4で設定したLDAPマッピングおよびTZVREPLACETHISサーバを選択します。

/api/v1/ldapSources

ここで、設定したLDAPマッピングとTZVREPLACETHISサーバを選択し、次にbaseDNとフィルタをWeb GuiからAPI設定に追加します。

設定のインポート(Web Gui)	API ldapSource
ベース識別名 (Base Distinguished name)	baseDn
フィルタ	フィルタ

手順6:ldapSyncによる設定変更の確認

これで、動作していることを確認できます。[API]、[Configuration]、[API]、[filter 'ldapSyncs]の順に選択してクリックし、[Create New]を選択します。

何も入力する必要はありません。作成を選択するだけでできます。これにより、同期プロセスが開始されます。30秒~1分後に、ページを更新して、完全なステータスが得られ、200 OKが返され

たことを確認します。

確認

すべてのフィールドが正しく設定されていることを確認します。

トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。